

新しい年の始まり

2023（令和5）年が始まりました。本年がどなたにとりましても、穏やかな良い年になりますことをお祈りいたします。そして、コロナ禍が一刻も早く終息することを願います。

昨年1月から早1年が経つかと思うと、時のはやさを感じざるを得ません。時のはやさと言えば、私は始業式等の式辞で、「時間」に関わる話をすることがあります。「時間」には、およそ次の三つの特徴があると考えています。それは、第一に「限りがある」こと。第二に、誰に対しても「公平に与えられている」こと。第三に「過去には戻れない」ことです。総じて、「いかに時間と向き合っていくか」といった趣旨の話をしていきます。

さて、『俳句大歳時記』の中に収録されている、新年を詠んだ句を調べてみました。どの句も新年にふさわしい印象に残るものばかりですが、次の3つの句を特に取り上げさせていただきますと思います。

「年迎ふ山河それぞれ位置に就き」（鷹羽狩行）

「未知という豊かな余白年あらた」（松本夜詩夫）

「初春の空どこまでも未来なり」（岡田風子）

僭越ながら、誤った解釈になることを懼れずに申しますと、これらの句からは、整然とした清々しさ、決意や覚悟、希望、そして大いなる可能性を感じることができます。何よりも元気をいただくことができます。

ところで、今年の干支は「兎」ですが、兎にまつわることわざには有名なものがあります。それは「二兎を追う者は一兎をも得ず」です。「同時に二つのことをしようとすれば両方とも成功しない」（広辞苑）ということ。このことを敢えて四字熟語にしてみると、「一意専心」あたりになるのでしょうか。他方、「一石二鳥」や「一挙兩得」といったものがあり、ことわざや四字熟語の多様性に興味を覚えます。海の向こうのアメリカ大リーグでは、大谷選手が「二刀流」として大活躍しています。いずれにしても、物事に対して強い意志と覚悟をもって挑んでいくことが肝要であると思います。本校の「目指す生徒像」の中に、「志を持ち、失敗を恐れず挑戦する逞しい生徒」というものがあります。

新年に当たり、最初の挑戦（俳句）をします。（「人も地も^{あまね}遍く照らす^{はっぴ}初日かな」）

コロナ禍が一刻も早く終息することを願うとともに、本年がすべての人にとってすばらしい一年となりますように心からお祈りいたします。